

栃木の力 全国に発信

初心

「知事としておかげさまで18年」

栃木県知事 福田富一



自治医科大学創立50周年記念式典で挨拶する福田知事＝5月14日、下野市薬師寺

2022年盛夏号

令和4年7月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

〈発行所〉
福田富一
暮しと政治研究所
〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028 (633) 1111
http://www.tomikazu.com

《第77回国民体育大会 問もなく総合開会式》

昭和55年の「栃の葉国体」以来42年ぶりの「いちご一会」とちぎ国体」の総合開会式を10月1日に迎える（大会11日開）。

準備に約10年間を要し、開催諸手続きや市町と一体となった、スタジアムやアリーナ等競技施設の整備、バリアフリー工事等、予定通り取り組むことができた。

コロナ禍で、鹿児島・三重の両大会がそれぞれ延期・中止となり3年ぶりの開催。

「第22回いちご一会大会」（全国障害者スポーツ大会）は、本県初開催であり、茨城大会が台風で中止となったため、福井大会以来4年ぶりの開催となる（大会は10月29日から3日間）。

《天皇杯・皇后杯獲得に向けて》

今大会も、国体での天皇杯・皇后杯獲得に向けて、平成26年に競技力向上対策本部を立ち上げ、競技力向上に取り組んできた。

冬季大会は既に終了し、総合点では天皇杯7位、皇后杯12位と健闘している。

天皇杯、皇后杯を獲得し、栃木のスポーツの力を全国に発信したい。

「夢を感動へ。感動を未来へ。」のスローガンのもと、本県スポーツ界の未来を担う子ども達や、全ての県民に勇気と感動を与え、それを本県の

栄えある未来の創造にもつなげたい。

《会期前競技は4競技》

総合開会式前に始まる4競技は、水泳競技、体操（体操新体操）、バレーボール（ビーチバレー）、弓道で、9月10日から19日までの日程で先行開催される。

《8月26日の結団式で 国体の参加人数確定》

・参加競技数38（正式競技37、特別競技＝高校野球）
・選手団983人（内、選手約900人）

参加する選手の皆様には、本県の代表として「チームとちぎ」の絆のもと、自身の名誉はもちろん、今まで支えてくれた方々への感謝の気持ちも含めて、思う存分戦って欲しい。

長年にわたり競技力向上にご尽力いただいた関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

県民の皆様には、最寄りの競技会場では、本県選手はもちろん、各県の選手を激励願いたい。

《国体までの厳しい道のり》

私が知事に就任する前年の平成15年には、足利銀行破綻という激震が走った。平成20年にはリーマンショック。平成23年には東日本大震災の発生（県内死者4人）。平成27年には関東・東北豪雨（死者3人）。令和元年には東日本台風に見舞われるなど、経済や自

然災害対応の連続だった。

明るい話題といえば、平成19年の新県庁舎の完成。平成20年にはいちご研究所開設。

リンク栃木ブルックスが「JBL」で日本一。その後、プロバスケット「Bリーグ」が発足し、今年5季ぶりで2度目の日本一に輝いた。平成23年には北関東自動車道が全線開通。平成24年にはスカイベリーの初出荷。平成29年には第2回「山の日記念」全国大会。第55回全国技能五輪大会・第37回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）の開催等があった。

厳しい県政経営の中でありながら、県議会とも一丸となり、財政の健全化にも取り組み、総額約650億円のスポーツゾーンの整備が完了できた。

「県庁は材木屋でもやる気が見られると思ってるの！」スポーツゾーンの整備に当たっては、桜の木や多くの樹木を伐採し、様々な意見を賜った。

随分明るく健康的な空間となり、桜の木も若木を多くの皆様の手で植えてもらった。最近では花見も少しは楽しめるようになり、県民の皆様の整備への理解が進んだと思う。

県庁舎と同様、100年建築として完成を見た各施設は、国体の開催をはじめ、今後は国際大会や全国大会、県民の健康づくり施設として大きな役割を担っていくことになる。世界で活躍する多くの選手が、県内各施設から巣立っていくことを願っている。

コロナ禍のなかで

記憶と記録に残る1年に

市町村長会議



「パートナーシップ宣誓制度」

9月導入に向けて全25市町と協議

5月24日、県公館で市町村長会議が開かれ(上写真)、県のこども医療費助成制度の対象を2023年度から拡充する方針を明らかにした。現行制度は小学6年までを対象にしており、県は対象年齢や助成方法など拡充の中身を今後検討する。

また県は、LGBTQなど性的少数者のカップルを公的に婚姻相当と認める「パートナーシップ宣誓制度」を9月1日から導入すると報告し、市町に協力を求めた。会議で異論は出ず、今後、県が要綱を作成し実施する。

福田知事は、「生きづらさを解消するため、共生社会を目指すために、全市町一体で取り組むという体制が整った」と評価。「県内に暮らす性的マイノリティーの方々にとって、今は決して生きやすい環境ではない。制度導入後も市町と意見交換し、支援内容の拡充を考えたい」と話した。

市町村長会議は新型コロナウイルスの影響でオンラインで実施してきたが、今回は3年ぶりに対面形式となった。

「栃木の力 全国に発信」

とちぎ国体結団式

10月に開催される「いちご一会とちぎ国体」に出場する本県選手団の結団式と壮行会が8月26日、宇都宮市の日環アリーナ栃木で行われた。式には416人が参加(写真)。

結団式で福田知事は、1月の冬季大会で県の順位が天皇杯7位、皇后杯10位だったことに触れ、「目標の天皇杯、皇后杯の獲得に向け、悲願達成に繋げてくれることを期待している」と激励した。

とちぎ国体の開会式は10月1日、閉会式は同11日、全国障害者スポーツ大会「とちぎ大会」の開会式は同29日、閉会式は同31日に開催予定。準備は着々と進んでいる。



国体表彰状と額縁披露

総合閉会式で授与される総合成績表彰状と木製の額縁を披露した。



福田知事に表彰状と木製額縁を披露した福田さん(左)と村上さん(左から3人目)

額縁の披露式が7月19日、県庁で行われた。表彰状は烏山手すき和紙、額縁は県産トチノキを用いた日光彫で、表彰状の周囲を飾る敷布は結城紬を採用した。福田知事は「工芸品としても逸品だ。大会を開催し、授与できるよう万全の準備を進めた」と話した。

緊急時の救助など協力 県と自衛隊が協定

県は7月11日、自衛隊と協力する協定を結んだ。県内4市町と千葉市で実施される計5競技で、陸上・海上自衛隊が緊急時の選手の救助や運営支援に当たる。

県公館で行われた協定締結式では、福田知事と陸上自衛隊の坂本雄一第12旅団長が協定書に署名。派遣される支援部隊と開催地の4市町もそれぞれ、覚書を交わした。協力する陸自隊員は160人。

福田知事は「不測の事態に備えるためにも心強く感じる。安全かつ円滑に運営できるよう万全を期したい」と挨拶した。



デモンストレーションで参加する福田知事(左から3人目)

初夏の県内 自転車で満喫

「ぐるるとち2022」

県内を自転車で巡るサイクルイベント「ぐるるとち2022」が5月21日、千本松の那須野が原公園を発着点に初開催された。2020年に終了した国際自転車ロードレース「ツール・ド・とちぎ」の後継イベント。12〜355キロの6コースが用意され、参加した県内外のサイクリスト約500人が初夏の県内を自転車で満喫した。

ぐるるとちは、県や県サイクルリング協会などでつくる実行委員会が主催。本来は昨年開く予定だったが、新型コロナウイルスの影響で中止されていた。

オープニングセレモニーで福田知事は「感染対策をしながら、栃木の良さをぐるるとち満喫してもらいたい」とあいさつした。



国体に向け自衛隊と協定を結んだ福田知事(左から5人目)や市町村長ら=11日、県公館

炬火に新エコ燃料活用 県と古河電工発表

県と古河電工工業(東京都千代田区)は5月23日、国体でとちぎ炬火(きよか)の燃料の一部に、同社が開発した環境配慮型の新燃料「グリーンLPガス」を使用すると発表した。県内の牛のふん尿を原料に製造したもので、実用化に向けた実証実験の第1弾となる。



炬火トーチなどを前に撮影に応じる福田知事(左)と小林社長

同日、福田知事と同社の小林敬一社長が、同社本社で共同記者会見した。五輪・パラリンピックの聖火に当たる炬火は、宇都宮市のカンセキスタジアムとちぎで行う開閉会式で炬火台にもとされる。

福田知事は「世界で初めての開発であり、県民の環境意識の高揚につなげていく」と意欲を語った。

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞の記事を抜粋させていただきました。

医療ひっ迫に危機感

BA・5対策強化宣言

栃木県は8月4日、新型コロナウイルス対策として政府が新設した「BA・5対策強化宣言」の発令を決めた。期間は8月5日から31日まで対象は県内全域。高齢者や基礎疾患がある人に対し、混雑した場所や感染リスクの高い場所への外出自粛を要請。早期の3回目、4回目のワクチン接種や、お盆や帰省ラッシュを前に、県内230か所の無料検査拠点のほか、JR宇都宮駅や小山駅に設置予定の臨時の検査拠点での積

極的な検査を呼びかけた。福田知事は「医療ひっ迫が進み、危機的な状況だ。一人一人がいつも以上に基本的な感染対策を徹底し、感染リスクの高い場所への外出や移動は慎重に判断してほしい」と呼び掛けた。県内では同日、新たに計3371人の感染者が確認され、過去最多を更新した。3日までの1週間の新規感染者数は人口10万人あたり757・9人で「第6波」のピークの約3倍。病床使用率は54・7%、重症病床使用率も21・7%で増加傾向にある。警戒度レベル「2」を維持する。

「栃木県も第7波に」

全国知事会ウェブ会議

福田知事は7月12日、全国知事会ウェブ会議で「本県も第7波に入った」との見方を示した。県内でも感染拡大が進んでおり同日は新規感染者が500人を超えた。福田知事はオミクロン株の特性を踏まえた感染法上の分類の見直しや新たな分類の創設検討を要請。就業制限などは必要最低限とし、感染者の全数把握を行わない他、新たな変異株が出現すれば、特性に応じて対応を見直すといった柔軟な取り扱いを求めた。

「LRT」生みの苦しみ

とちぎ元氣フォーラムin芳賀

福田知事と県民が直接対話する「知事と語ろう!とちぎ元氣フォーラムin芳賀」が6月4日、芳賀町祖母井の芳賀町民会館で開かれ、町民ら約50人が参加し意見交換した。福田知事は冒頭の挨拶で、バスケットボールBリーグ日本一に輝いた宇都宮ブレックスについて「6年間で2回目の日本一」とたたえた。宇都宮市と芳賀町が進めるJR宇都宮駅東側の次世代型路面電車(LRT)整備事業で開業が再延期とな

ったことには「生みの苦しみ。延びても仕方ない」との見解を示した。同町にも駅が整備されることから「地域おこしや活性化に結び付く地域交通になってほしい」と述べた。

農政などについて福田知事と意見交換する町民ら=4日午後、芳賀町民会館

県スポーツ功労賞を授与

宇都宮ブレックス

手渡し「心技体が相手に勝った結果。県民の誇りです」と賛辞を贈った。

小池詩織選手

北京冬季五輪アイスホッケー女子で6位入賞した日本代表のDF小池詩織選手(29)は日光市出身、道路建設ペリグリンが4月27日、県庁で知事特別表彰の県スポーツ功労賞を受賞した。授与式で福田知事は「見事な活躍だった。次の目標に向かって力強く歩んでほしい。県全体で応援している」とエールを送った。小池選手は「県民の皆さんの応援が最後まで戦い抜く活力になった」と謝意を示した。



比島川比のブレックスの受け取る表彰状のトフィーから県知事(左から2人目)と表彰状を持つ田臥選手(同3人目)=県庁前広場



国交省が進める鹿沼市の思川開発事業(南摩ダム)の定礎式に出席。「治水、利水の両面から大いに力を発揮することを期待する」と挨拶。11月3日、鹿沼市上南摩町

東奔西走の日々

- ◇2月20日 美の国あきた鹿角国体に出席/県勢の健闘をねぎらう。
- ◇3月12日 鹿沼市の南摩ダムの定礎式に出席(上記写真)
- ◇3月26日 国道400号下塩原バイパス全線開通/「地域産業の活性化に大きく寄与する」と挨拶。
- ◇4月1日 県幹部職員や新たに採用した県養成医師に訓示/「皆さんの若い力に大いに期待している」
- ◇5月14日 自治医大創立50周年記念式典に出席。
- ◇5月18日 関東地方知事会オンライン会議/食品の輸出拡大を要望。
- ◇6月18日 とちぎ元氣フォーラムin那須烏山/防災無線の存続を支援したい。
- ◇6月27日 鹿沼・日光・塩谷地区市町村長会議/観光公害巡視などの要望に対し「定期的な巡回を実施し、啓発パトロールも協力する」と知事。
- ◇6月30日 宇都宮地区市町村長会議/情報発信の研修要望に「段階的な内容の研修会を開催したい」と知事。
- ◇7月2日 とちぎ元氣フォーラムin鹿沼/高齢者送迎サービスを称える。
- ◇7月6日 栃木・小山・両毛地区市町村長会議/「デジタル教科書も教科用図書と同様に国が無償供給するべき。国に要望する」と知事。
- ◇7月7日 東京電力管内の1都8県の知事でテレビ会議/熱中症対策と省エネ・節電の両立を都県民に呼び掛ける共同メッセージの発出を決定。
- ◇7月14日 東京で「とちぎ企業立地・魅力発信セミナー」開催/とちぎの立地環境などをPR。
- ◇7月16日 上戸祭立休(宇都宮市上戸祭町)の開通式/「渋滞緩和に加え、地域の活性化や交流の促進につながる」と挨拶。
- ◇7月22日 奥日光・中禅寺立木観音に歌手の加山雄三さんの「君といつまでも」の歌碑建立、除幕式に出席。
- ◇7月26日 那須烏山市の豚熱(CSF)の防疫作業を視察/「大変でつらい作業だ。職員には健康管理をしっかりしてほしい」と知事。
- ◇7月30日 とちぎ元氣フォーラムin壬生/交通、子育てで意見交換。

県は6月5日、宇都宮ブレックスの5季ぶり2度目のプロバスケットボールBリーグ優勝を祝い、知事特別表彰の県スポーツ功労賞を贈った。福田知事は県庁舎前で行われた優勝記念パレードの発式で、県スポーツ功労賞の表彰状を田臥勇太主将に



県スポーツ功労賞を初受賞した小池選手(左)=27日午後県庁

奈良市で全国知事会議

感染急増、医療人材確保を



全国知事会は7月28日、29日の2日間にわたり、奈良県奈良市で会議を開き、新型コロナウイルスに関する国への提言をまとめた。

出席した知事らは会議の冒頭、奈良市で銃撃され死亡した安倍晋三元首相に黙とうをささげた。

会長の平井伸治鳥取県知事はあいさつで「今は未曾有の危機にある。新型コロナを抑え、経済も回さなければならぬ。難しいかじ取りが使命となっている」と述べた。

オミクロン株の派生型B.A.5への置き換わりなどにより、全国的に感染が急拡大していると危機感を表明。国が医療人材を確保し、不足している地域に派遣できる体制を整えるよう要望した。

まん延防止等重点措置に関しては、発令の基準を明示するよう求めた。

また経済活動を維持するため、発令しても飲食店への営業制限を義務化するべきではないと訴えた。

緊急建議は「B.A.5に対し、現在の基本的対処方針では的確な対応が困難だ」と指摘。B.A.5の特徴を早期に明らかにし、新たな方針を示すよう求めた。

会議には44都道府県の知事が出席(上記写真、前列左から5人目が福田知事)。2019年の富山県富山市での開催以来3年ぶりとなる対面の開催となった。

福田知事は、食料安全保障の観点から「国の役割としてコメなど基幹作物の安定生産に向けた技術開発が必要だ。地域ごとの気象に関する将来予測の詳細を示すなど、基本的な対策の充実も求めたい」と発言した。

米国大使館関係者らと意見交換 とちぎ型大使館外交



米国大使館関係者にトップセールスを行う福田知事(右手前) =23日夜、東京都内

福田知事は3月23日夜、在日米国大使館や在日米国商工会議所の関係者ら9人と都内で面会し、本県の食や観光などをPRした。福田知事が公約に掲げた「とちぎ型大使館外交」で、今回で5カ所目。

ヘザー・コーネル上席商務官に、本県の投資環境を説明するなど約1時間にわたり意見を交わした。その後、関係者らにとちぎ和牛やヤシオマス、農産物、地酒などを実際に飲食してもらった。

『福田家の茶の間』

我が家のマー君(黒パグ)も4歳になった。やんちゃな男の子だが、言葉を良く理解し私達の癒しの存在である。ところで、夫の両親は昨年、母は1月に、父も4月の誕生日にそれぞれ免許証を返納した。母の通院や食料の買物などでよくちよく実家に行っているが、それでも自由に出歩けないことが不便だと、しばらくは2人揃って免許証を返納したことを後悔していた。



母は持病があるため、毎月先生の診察を受け薬を処方してもらっているが、「だるい、疲れ」と言うので2ヶ月続けて私が1人で伺った。2回目のとき、先生はとて厳しく、「もっと積極的に出歩いたり、デイサービスに行くとかしなると動けなくなりますが」と言われた。私は「春になれば庭の草取りとかするといい」と答えたが、「このままでは春までもちませんよ。命ではなく、筋力が」と先生。それからわずか2週間後、

転んで圧迫骨折し、1ヶ月入院。急遽、介護保険の申請を行い、要介護認定を受け、今はデイサービスに通いながら行き届いた介護ケアを受け、何とかこれまで通りの生活を送れている。父は10数年前から耳が遠くなり、購入した補聴器も合わず、会話が難しくなっていた。6月に耳鼻科の先生の診察を受け、補聴器も調整してもらって、普通の会話ができるようになったと喜んでたのも束の間、免許証返納後はシニアカーに乗ってこまごまとした用事を済ませていた父だが、徐々に意欲が低下していった。雑草を放置するわけにもいかず、両親に代わって、近所の方や友人、知人、親戚にも手伝ってもらい、炎天下、畑や庭の草取りなどをしたが、家を維持していく大変さも実感した夏となった。お世話になってる皆さんには本当に感謝しています。

新型コロナウイルス感染症も随分身近になってきました。どうぞ皆様くれぐれもご自愛ください。

編集後記

今年の3月に新型コロナウイルス感染症対策のまん延防止等重点措置が全面解除され、後援会行事も3年ぶりに開催できるかと思っていたが、7月にはオミクロン株の感染拡大が進み、栃木県も第7波に入り感染者が過去最多を更新した。

「とちぎ国体」が開幕する。コロナ下では初開催となる。感染収束が見通せない中、福田知事は万全の準備を進めている。

◇◇後援会総連合会事務局
◇◇福田富一暮らしと政治研究所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話 028(6333)1111
FAX 028(6333)1110